

都留市文化財保存活用地域計画

第3章「歴史文化の特性」の考え方について

(参考) 第2回協議会後における各委員意見を踏まえた再整理

実施していくべき措置（第7章）/実施していくべき措置に基づく方針（第6章）

具体的に「何をやるか」「やるべきこと」をイメージ・・・ここについては実際の事業展開を踏まえて2期目に変化していく

文化財の保存・活用に関する将来像【目指すべき将来像・基本的な方向性】（第5章）

第7次都留市総合計画の文言を記載しつつ、それを踏まえてどのように保存・活用を進めるか、ビジョンを設定

措置と方針を踏まえた「歴史文化の特性」の設定（第3章）

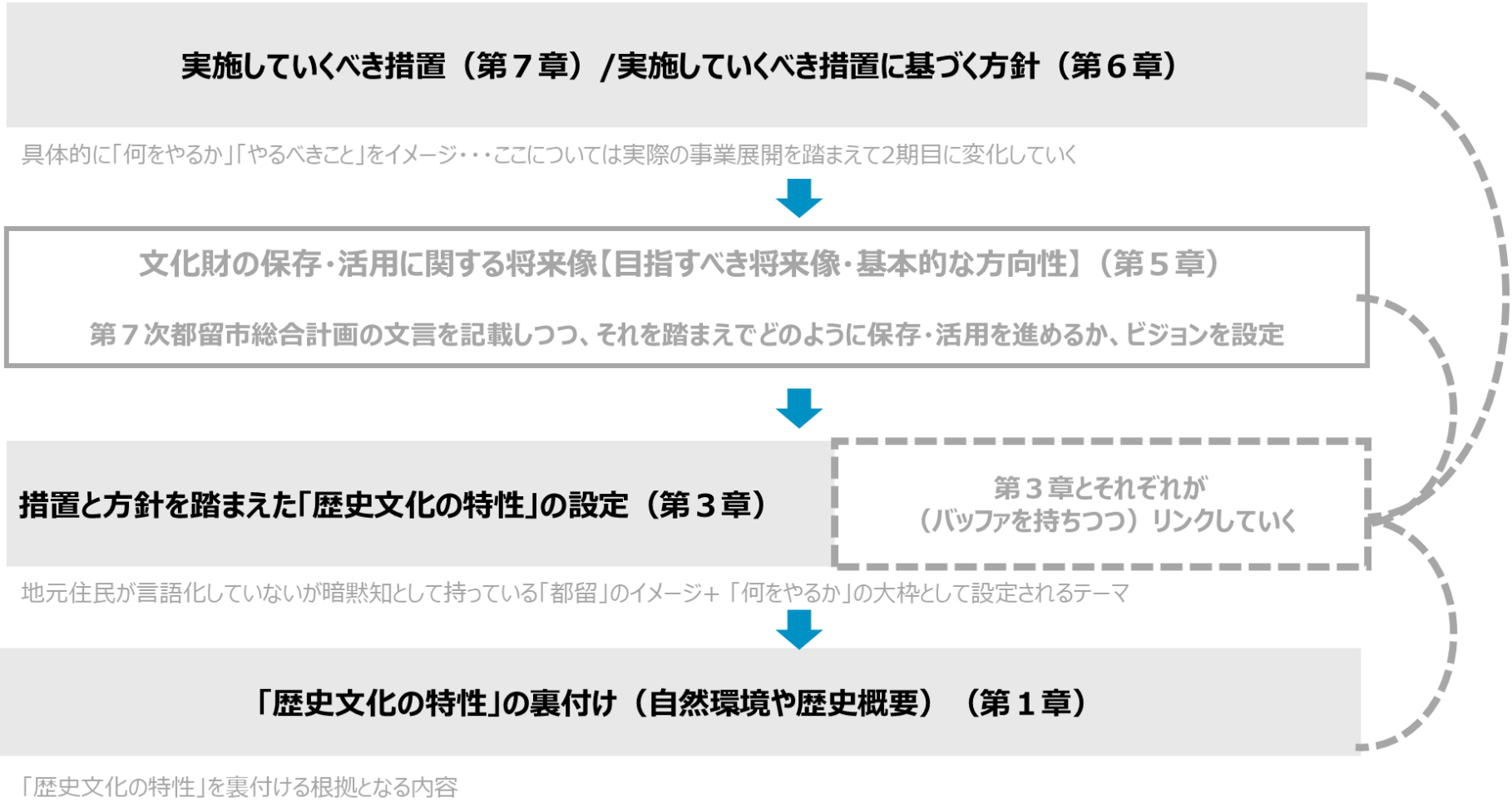
第3章とそれぞれが
（バッファを持ちつつ）リンクしていく

地元住民が言語化していないが暗黙知として持っている「都留」のイメージ+「何をやるか」の大枠として設定されるテーマ

「歴史文化の特性」の裏付け（自然環境や歴史概要）（第1章）

「歴史文化の特性」を裏付ける根拠となる内容

第3章 「歴史文化の特性」を設定する上での考え方



序章

- ・ 課題もあるが…… <都留市の持つ特性や地域に資する財として守るべきものは何か、ということを打ち出す
- ・ 大学が社会教育の現場に大学生が出ていくことを念頭とした課題設定
- ・ 市民を主眼とした現状課題 等

文化財の関心度 ペルソナ



ペルソナの対象層（例）
《教育分野も重視》

子ども（0歳～高校生）
・《幼児》
・《小学生低学年》
・《小学校高学年》
・《中学生》
・《高校生》

成人（18～64歳）
・《大学生》
・社会人（年代やポジションで細分化？）

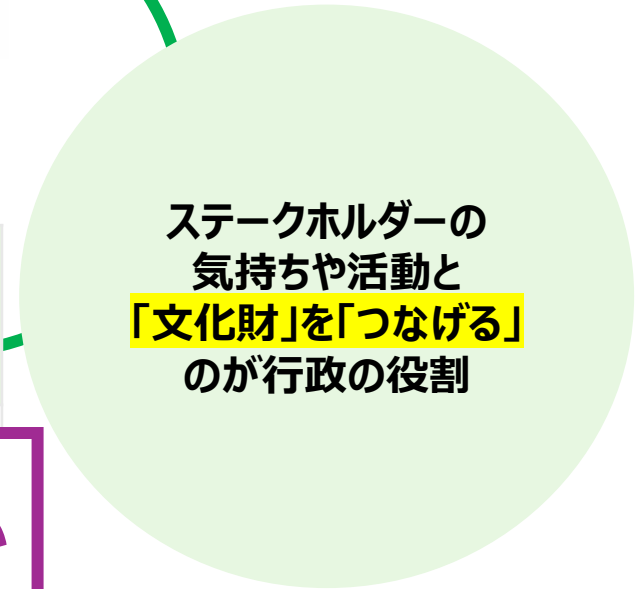
高齢者（65歳以上）

どういう人（ペルソナ）がいて、その活動やニーズなどをイメージして具体的な措置を考える

文化財の保存・活用の課題と方針・措置（第6章・第7章）を考えるうえでのステークホルダーのイメージ



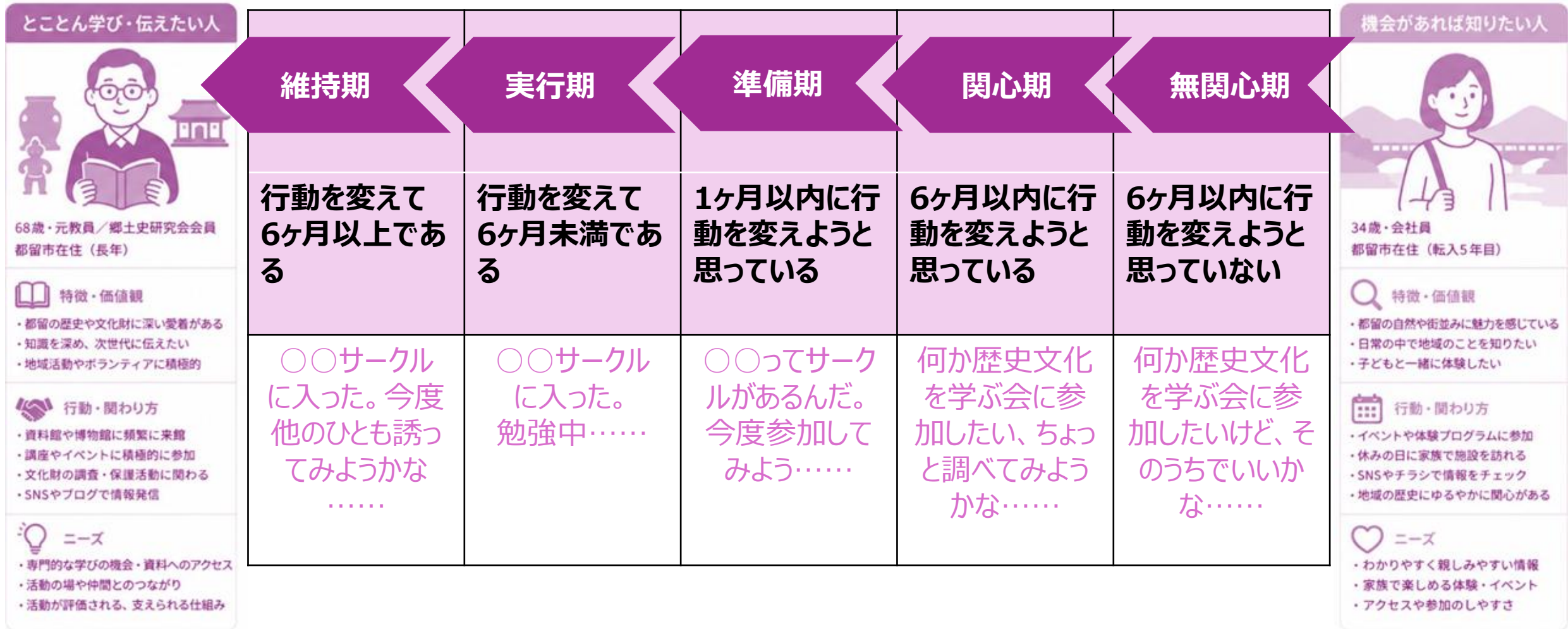
■ 気持ち 「もっと調べたい」 「他の人にも知ってほしい」	■ 気持ち 「面白そう」 「また来たい」	■ 気持ち 「少し気になる」 「意外と面白い」	■ 気持ち 「時間があれば」 「子どもが行くなら」	■ 気持ち 「関係ない」 「健康イベントなら参加してみよう」
-------------------------------------	----------------------------	-------------------------------	---------------------------------	--------------------------------------



行政がどういう働きかけをするのか/行政としてどういうマネジメントをするのか
※マンパワー、財源など継続性も配慮しながら

■ 行政ができること ・ ボランティア育成 ・ 調査参加機会 ・ 専門講座 ・ デジタルアーカイブ公開	■ 行政ができること ・ 家族イベント ・ スタンプラリー ・ ワークショップ ・ SNS発信	■ 行政ができること ・ デジタルコンテンツ ・ AR ・ 学生連携 ・ 大学との共同事業	■ 行政ができること ・ 買い物ついで展示 ・ 商業施設展示 ・ 防災・観光との連携 ・ QRコードで気軽に閲覧	■ 行政ができること ・ 健康×文化財 ・ 防災×文化財 ・ 福祉との連携 ・ 出前展示 ・ 地域サロン
---	---	---	--	---

具体的なアクションに変容するまでのステージ（行動変容ステージモデルを参考）

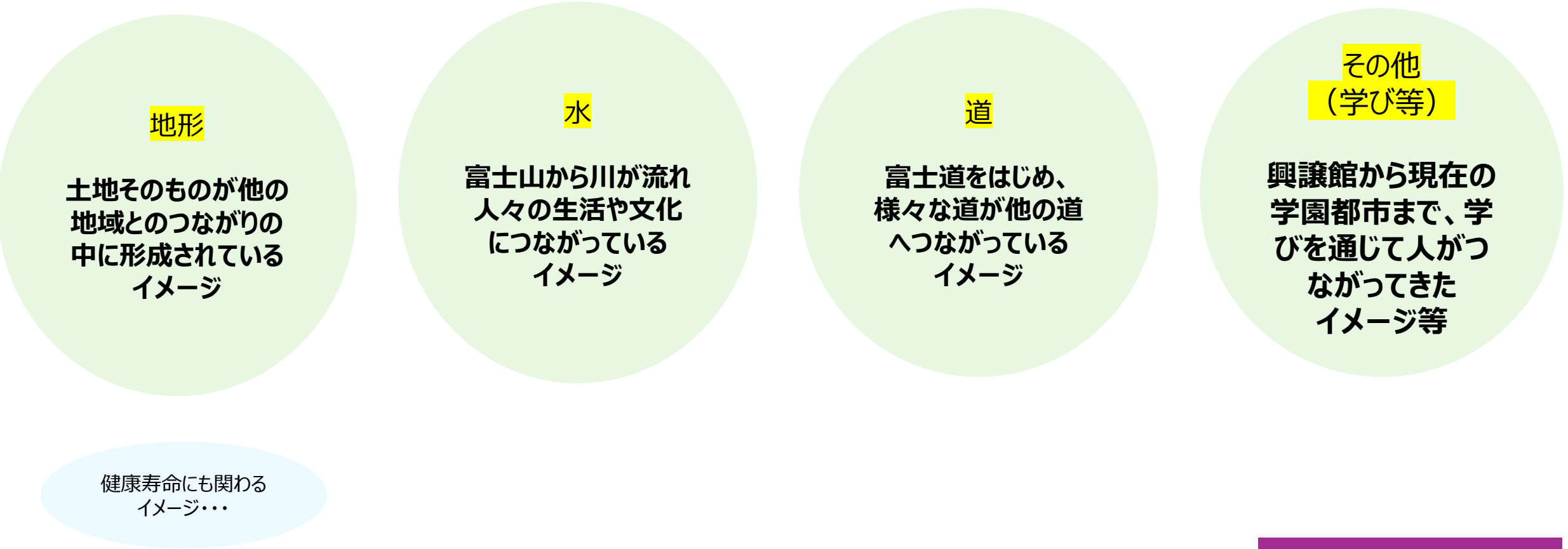


➤ 都留の名前の由来「つる」 → 連想可能なキーワード「つながり」

「つる」の名前の由来

「富士山の裾野が蔓葛のように北へ長く延びている様を、縁起の良い嘉名の『鶴』に当てた」
 「菊の生えた山の谷から流れ出る水を飲む人は、長寿を保って鶴のようである」

諸説あり
 ※留意



- ◆ 都留の名前の由来「つる」 → 連想可能なキーワード「つながり」
- ◆ 本市が目指すべき文化財の活用に伴いコミュニティ形成、ウェルビーイングや健康寿命にも親和性がある
→「つながり」を軸としてイメージできる方針（案）を設定
→措置により「文化財」の意識醸成や活動延伸につながる対象者や活動者（ステークホルダー）も紐づけ

現状、並列的に書かれている方針を時間軸・空間軸で整理すると解像度がUP

文化財を未来に「つなげる」
(文化財の保存)

時間軸メイン

イメージしやすいステークホルダー

- 文化財を所有する個人・団体
- 文化財が存在するエリアの住民・団体

イメージできる取組

- 補助制度の整備
- 文化財を保存する施設や文化財拠点の整備

文化財を暮らしに「つなげる」
(観光、教育、福祉、防災、庁内連携)

空間軸メイン

イメージしやすいステークホルダー

- 各協力会、学校、大学生、いーばしよ、協働のまちづくり推進会、自治会、自主防災会、各保存会、一社（つるラボ）等

イメージできる取組

- 学校や地域団体への出前講座や教材作成
- 福祉施設や企業との連携事業

文化財に誰もが「つながる」
(情報・交通等アクセスしやすい機会の創出)

空間軸メイン

イメージしやすいステークホルダー

……まずは認知度（第1回協議会での課題感）

- 文化財への関心層（高い～低い）
- 公共交通機関利用者

イメージできる取組

- SNS活用、フォトスポット、デジタルアーカイブの整備
- 文化財周遊ルート等の整備

文化財で地域が「つながる」
(コミュニティ形成、広域連携)

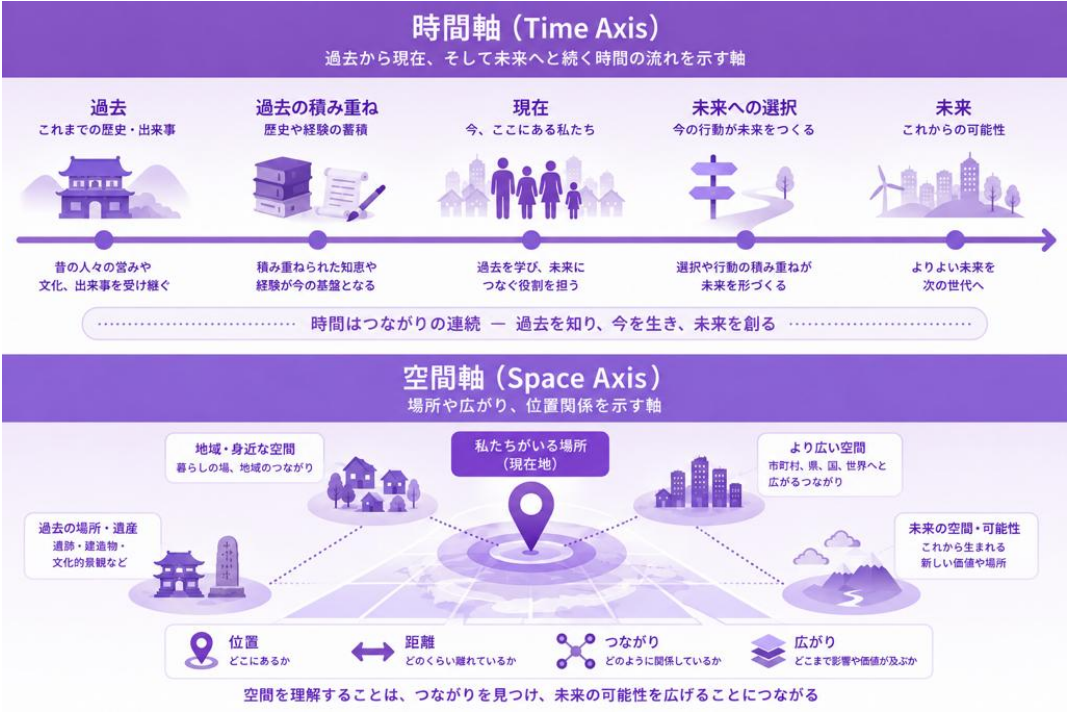
空間軸メイン

イメージしやすいステークホルダー

- 多面的につながった団体、近隣市町村

イメージできる取組

- 「地域」が主体のイベントの開催
- 近隣自治体との文化財保護の連携体制



方向性	ニーズや課題	方針	取組例【仮イメージ】
文化財を未来に「つなげる」 （文化財の保存）		既存事業として展開してきた文化財保護の業務については、継続するとともに、コミュニティの衰退や価値観の変化など、文化財を保護しづらい環境下において、ニーズ調査等を踏まえて必要な支援を展開	(整理中) - 指定・未指定文化財の現状把握調査【新規・継続】 - 商家資料館の改修【継続】 - 周知の埋蔵文化財包蔵地調査【継続】 - 勝山城跡 - 文化財補助金等を活用した保存修理支援【新規・継続/拡大】 - 文化財の定期的な現況調査の実施【継続】 - 文化財の新規指定・登録や掘り起こし - 博物館施設における資料の保存と整理 - 文化財保存に係る担い手の育成
文化財に誰もが「つながる」 （情報・交通等アクセスしやすい 機会の創出）		「知らない」「生活に影響がない」層へのアプローチする事業展開、文化財として認識をしてないがなんとなく活用したいと思っている層への窓口の充実化、情報発信の多用化（使用するツール、多言語化）、これまでにない文化財の活用方法、デジタル活用・・・	- 歴史資料のデジタル化・アーカイブ化 - 市内遺跡地図のオープンデータ化 - 未刊行報告書の刊行 - WEBなどのメディアを活用した情報発信の強化 - ユニークベニューとしての文化財の活用（食、映像、スポーツ、コンサート、アクティビティ） - 博物館基本的運営方針との連動
文化財をくらしに「つなげる」 （観光、教育、福祉、防災、庁内連携）			連携 ソフト変更、織物
文化財で地域が「つながる」 （コミュニティ形成、広域連携）			支援事業）【継続・拡大】 講座・体験）【継続・拡大】 の連携） クベニューとしての文化財の活用（再掲） 郷土資料館支援事業 が活用しやすく集まりやすい旧「商家資料館」運営事業 ・ 郡内地域における広域連携体制の構築

第6章・第7章の「方針・措置」を

「つながり」をベースに

整理していく

厳密に、という形ではなくバッファを持たせて

【例】尾県郷土資料館への措置：イメージできる活動支援やステークホルダー

県指定文化財「旧尾県学校」を核として住民活動が行う
ステークホルダー：尾県郷土資料館協力会（主体・関心度高）/学校・地域住民（サブ）/その他の利用者（サブ）

支援項目	（具体的な支援）	スケジュール （5年：前期）	スケジュール （5年：後期）	4分類におけるイメージ	効果検証KPI ★どうなっていてほしいか
拠点の整備	耐震診断及び適切な改修・修繕	- 耐震診断 - 実施設計	耐震改修	文化財を未来に「つなげる」 （文化財の保存）	- 適切に保存されている （管理人を含む）巡視人材の設置
施設認知度の向上	- 展示・公開業務 - 資料のデジタルアーカイブ化 - Web発信の強化 - 資料館まつりの実施（ユニークベニューの一例）	- コンセプトに沿った展示内容の整理 - 資料館まつり（毎年） - 資料整理及びデータ - Web発信	- 資料館まつり（毎年） - 公開アーカイブの設置	文化財に誰もが「つながる」 （情報・交通等アクセスしやすい機会の創出）	1年に1回当館を利用する都留市人口が向上している
活動への支援	- 地域コミュニティ独自の文化展 - 文化財を活かしたまち歩き - 未指定文化財への看板設置 - 学校などの団体への教育普及	- 活動者の方針や手法を尊重した活動支援 - 学校現場への普及の実施	〃	文化財をくらしに「つなげる」 （観光、教育、福祉、防災、庁内連携）	活動を通じて活動者が生きがいを感じている 健康寿命の延伸につながっている
		地域人材の育成	〃	文化財で地域が「つながる」 （コミュニティ形成、広域連携）	地域が持続している

※イメージ※

【文化財】尾県郷土資料館と【ステークホルダー】尾県郷土資料館協力会を核として、
様々な個人・団体が有機的につながり、活動が継続していくエリアの支援

「措置」のイメージ

※「つながり」の要素から想定される「歴史文化の特性」のイメージ※



0. 全体特性（3つの歴史特性をつなげる総括のキャッチフレーズ）（作成前）

歴史文化の特性のイメージ

1. 水を起点とする地形形成、周辺地域、信仰などの人々のつながり
2. 道を起点とする地形形成、周辺地域、地域産業などの人々のつながり
3. 学びによって継承される人々のつながり

※「つながり」の要素から想定される「歴史文化の特性」のイメージの「言語化」※

少々（観光
や関係人口
的には）
内向き

0. 水と道、学びが人々の暮らしをつなぐ都留の歴史文化

歴史文化の特性（案）	歴史特性を構成する概要（案）（3～4行程度で計画に記載）	
1. 桂川水系と湧水がはぐくむ人々の営み	桂川水系と支流のネットワークが急峻な河岸段丘に集落の展開をもたらし、「大堰」や湧水群とともに生活や産業を支える水景を形成した。その水脈は地域社会の基盤として人々の営みや信仰を結んできた。 自然から何が生み出されてきたのか、織物産業、ヒトの記憶	歴史文化のプロセスによって「生まれてきた都留市特有のアイデンティティや個性」を概要に記載
2. みちがつなぐ産業と文化	四方を山に囲まれた往来の中間点として、「富士道」や「近ヶ坂往還」などの様々な「みち」は、郡内織・甲斐絹の流通、富士信仰や茶壺道中、馬車鉄道に至るまで、時代ごとのヒトとモノの交流を形成した。 「都市と〇〇」「甲斐絹の出荷状況」等	
3. 世代を超える学びの継承	藩政期の寺子屋や旧尾県学校等の成立から公立大学法人都留文科大学などの学園都市に至る学びの系譜が、世代を越えて知の継承と人々の営みをつむぎ出してきた。 学校教育史にとどまらない（事業承継や寺の幼保教育等）	

※その他の必要な項目は概要の後に続く説明で詳細を記入する予定※

第1章の基本情報（社会的状況や歴史的背景）の記載を「特性」内容とリンクさせる。

※ただし、歴史については諸説などがあることも留意

※「つながり」に関しては「講」なども

※「つながり」の要素から想定される「歴史文化の特性」のイメージの「言語化」※

「富士山」と「大都市」の間にある…
外向きのつながり

0. 水と道、学びが人々の暮らしをつなぐ都留
の歴史文化

「富士山と大都市のはざままで歩み続ける
〇〇」(仮)

第1章で富士山や東京との関係性が
強調される文章・図 等

歴史文化の特性 (案)	歴史特性を構成する概要 (案) (3〜4行程度で計画に記載)
1. 桂川水系と湧水がはぐくむ人々の営み	桂川水系と支流のネットワークが急峻な河岸段丘に集落の展開をもたらし、「大堰」や湧水群とともに生活や産業を支える水景を形成した。その水脈は地域社会の基盤として人々の営みや信仰を結んできた。 自然から何が生み出されてきたのか、織物産業、ヒトの記憶
2. みちがつなぐ産業と文化	四方を山に囲まれた往来の中間点として、「富士道」や「近ヶ坂往還」などの様々な「みち」は、郡内織・甲斐絹の流通、富士信仰や茶壺道中、馬車鉄道に至るまで、時代ごとのヒトとモノの交流を形成した。 「都市と〇〇」「甲斐絹」
3. 世代を超える学びの継承	藩政期の寺子屋や旧尾県学校等の成立から公立大学法人都留文科大学などの学園都市に至る学びの系譜が、世代を越えて知の継承と人々の営みをつむぎ出してきた。 学校教育史にとどまらない(事業承継や寺の幼保教育等)

歴史文化のプロセスによって「生まれてきた都留市特有のアイデンティティや個性」を概要に記載

キャッチフレーズは5、6、7章の整理で解像度があがってきたら
再考もあり(各章を行ったり来たりしながら検討)

※その他の必要な項目は概要の後に続く説明で詳細を記入する予定※

第1章の基本情報(社会的状況や歴史的背景)の記載を「特性」内容とリンクさせる。
※ただし、歴史については諸説などがあることも留意